

バックエンドエンジニアのスケールする キャリア戦略

バックエンドエンジニアの平均年収は862万円 (Findy Freelance 2025年版調査) と、フロントエンジニア (784万円) やインフラエンジニア (825万円) を上回る水準にある。さらにLAPRASの2025年6月時点のデータでは、エンジニア向け求人 of 年収上限平均が1,059万円に達しており、スキルと経験によって1,000万円超の市場価値を獲得できる職種として認知されている。本稿では、こうした数値の背景にある構造的要因を解析し、バックエンドエンジニアが長期にわたって市場価値を高め続けるための、証拠に基づいたキャリア戦略を示す。なお記事中の数値はすべて一次調査または公式統計から引用しており、推測を含む記述は出典明記のうえ調査主体を示している。

はじめに: 「スケールするキャリア」とは何か

エンジニアのキャリアにおいて「スケールする」とは、単に転職によって年収を引き上げることではない。サービスの成長・組織の拡大・技術の変化という三つの次元において、自分の市場価値が連動して高まる状態を指す。バックエンドエンジニアというポジションは、その性質上、この三次元のスケールが生じやすい領域に位置している。

世界経済フォーラム (WEF) が2025年に公表した「Future of Jobs Report 2025」(調査対象: 1,000社超・従業員1,400万人以上) では、ソフトウェア開発者は今後最も成長が見込まれる職種の一つとして位置づけられている。同レポートによれば、2030年までに1億7,000万の新規雇用が生まれる一方、9,200万の雇用が代替されると試算されており、この差分を生む原動力として「AIとビッグデータ」「ネットワークおよびサイバーセキュリティ」「技術リテラシー」の三分野が急成長スキルに挙げられている。(出典: [WEF – Future of Jobs Report 2025](#))

バックエンド開発はこれら三分野すべてと交差する領域であり、本稿が示す戦略的な学習と経験積み上げによってキャリアの「スケール」が現実となる。以下では、言語選択・データベース・クラウド・SRE・AIという五つの軸から、データに基づいてその道筋を具体化する。

なお本記事は、サイバーセキュリティおよび経営コンサルティングサービスを提供するLibrus株式会社が作成・所有するオウンドメディア記事である。

1. バックエンドエンジニアの市場価値: 2025年の年収・需要データ

キャリア戦略を立案するうえで、まず現在の市場水準を正確に把握することが出発点となる。複数の独立した調査が示す2025年のバックエンドエンジニアの年収データを整理する。

フリーランス・転職市場が示す年収水準

Findy Freelanceが2025年に公表した「バックエンドエンジニア案件調査」によれば、バックエンドエンジニアの平均年収は862万円であり、IT職種別ランキングで第4位に位置する。フロントエンドエンジニア(784万円)やインフラエンジニア(825万円)を上回る結果となっており、バックエンドエンジニアが市場においてより高い価格付けを受けていることが確認できる。平均月額単価は76.0万円で、2025年11月時点では最新の集計値として912万円が報告されている。(出典: [CodeZine – 2025年版バックエンドエンジニア案件の調査結果、平均年収は862万円](#)、[PR Times – バックエンドエンジニア案件2025年11月最新](#))

Findyが2025年3月に公表した「IT/Webエンジニア調査レポート」では、調査開始以来初めて回答者の平均年収が700万円台に達し、700.8万円を記録した。同レポートでは使用言語別の平均年収も公表されており、GoとDartが引き続き高い水準を示している。(出典: [Findy – エンジニアキャリア年収調査](#))

862万円

バックエンドエンジニア

フリーランス平均年収

(Findy 2025)

912万円

同 2025年11月最新

最新集計値

(Findy Freelance)

1,059万円

求人年収上限

平均値

(LAPRAS 2025年6月)

出典: CodeZine (Findy Freelance 2025)、PR Times (Findy Freelance 2025年11月)、LAPRAS HR TECH LAB
2025年6月時点データ

職種別希望年収の比較: バックエンドとSREの差

LAPRASが2025年7月時点のユーザーデータ(転職意欲「高・中」かつアクティブなユーザー)を分析した「職種別エンジニアの希望年収」レポートによれば、職種間で希望年収のボリュームゾーンに明確な差が存在する。バックエンドエンジニアの希望年収はピークが700万円~799万円(約17.5%)にあり、600万円~900万円の範囲に全体の半数近くが集中している。一方でSREは800万円~899万円をピーク(約23%)とし、800万円~1,100万円の範囲に全体の半数以上が集中する。1,500万円以上を希望する層も6%超と、全職種中で最も高い割合を示している。(出典: [LAPRAS HR TECH LAB - ITエンジニアの職種別年収トレンド\(2025年\)](#))

職種	希望年収ピーク帯	ボリュームゾーン	1,500万円以上の割合
フロントエンドエンジニア	600万円台(約20%)	500万～900万円	約3%
バックエンドエンジニア	700万円台(約17.5%)	600万～900万円	記載なし
インフラエンジニア	800万円台(ピーク)	500万～800万円(分散)	約5%
SRE	800万円台(約23%)	800万～1,100万円	6%超
モバイルエンジニア	800万円台(約32.5%)	800万円前後に集中	一定割合

出典:LAPRAS HR TECH LAB「ITエンジニアの職種別年収トレンド(2025年)」(2025年7月30日時点、転職意欲高・中かつアクティブなユーザーを対象)

この比較が示す重要な示唆は、バックエンドエンジニアとしての技術蓄積を基盤としてSREやインフラ領域へとキャリアを拡張することで、希望年収のボリュームゾーンが一段階高い水準にシフトする可能性があるという点である。次節以降で示すスキル習得の優先順位は、この方向性と整合している。

2. 言語選択がキャリアに与える影響：市場データが示す言語別年収格差

バックエンドエンジニアが扱うプログラミング言語の選択は、採用市場における評価額に直接影響を与えることが複数のデータで確認されている。言語はツールに過ぎないが、ツールの選択が市場価値に数百万円単位の差をもたらすという現実を、客観的なデータから読み解く。

Go言語の圧倒的な年収優位性

paiza株式会社が2025年12月に公表した「プログラミング言語に関する調査(2025年版)」では、言語別平均提示年収ランキングにおいてGoが3年連続で第1位となり、平均723万円を記録した。第2位のTypeScript(714万円)、第3位のRuby(689万円)を上回る結果である。同調査で企業からの求人ニーズが最も高い言語として挙げられているのはJavaScriptであるが、提示年収との乖離が存在しており、需要の高さと年収水準は必ずしも一致しない点が示唆されている。(出典：[paiza株式会社 – プログラミング言語に関する調査\(2025年版\)、2025年12月](#))

Findyの過去調査(IT/Webエンジニア年収調査・2024年版)では、使用言語別平均年収でGoは814.8万円と、全調査対象言語で最高値を記録している。フリーランス市場でも同様の傾向が確認でき、Findy Freelanceの2025年10月時点の集計によれば、Go言語案件の平均年収は969万円で、フリーランス全職種中でも高水準に位置している。(出典：[Findy – IT/Webエンジニア年収調査、PR Times – Go言語エンジニア案件2025年10月最新](#))

Goが高年収と結びつく構造的な理由は、同言語が採用される用途に起因している。Goはシステムソフトウェア・分散システム・高トラフィックAPIサーバーといった性能要件の厳しい領域で主に使用される。これらの領域を担えるエンジニアは希少性が高く、結果として採用競争が激化し年収が押し上げられる。LAPRAS(2025年)のデータでもGoは「求人数が増加している言語」に分類されており、希少性と需要が同時に高まる構造が継続していることが確認できる。(出典：[LAPRAS – プログラミング言語・フレームワーク別求人数の推移\(2025年\)](#))

言語別年収データまとめ(2025年)

- Go: paiza 2025で3年連続年収1位(723万円)、Findy 2024で814.8万円(最高)、フリーランス年収969万円(2025年10月)

- TypeScript: paiza 2025で2位(714万円)、フリーランス年収930万円(2025年9月)
- Ruby: paiza 2025で3位(689万円)
- JavaScript: paiza 2025で求人ニーズ最多言語、ただし年収は上位3言語に比べ低め
- Python: Stack Overflow 2025で利用率+7pp、AIバックエンド領域で需要急増

Python・Rustの台頭とバックエンド開発への影響

Stack Overflow Developer Survey 2025(有効回答数49,000人超・177カ国)では、Pythonの利用率が前年比7ポイント増を記録し、「AI・データサイエンス・バックエンド開発向けの言語として最適」という位置づけが一層強まっていると報告されている。PythonはAI連携バックエンド(機械学習APIの構築・データパイプライン処理)において標準的な選択肢となっており、Findyの2025年12月版エンジニア調査レポートでは、Python使用のバックエンドエンジニアの年収幅として1,000万円~2,000万円が提示されている。(出典:[Stack Overflow Developer Survey 2025 – Technology](#)、[Findy – エンジニア調査レポート2025年12月版](#))

Rustは、Stack Overflow Developer Survey 2025において「最も称賛される言語」として72%の支持率を獲得し、調査開始以来複数年にわたってこの地位を保持している。WebAssembly・組み込みシステム・OSレベルのシステムソフトウェア開発における採用が増加しているが、現時点での求人数や平均年収の日本国内における詳細なデータは限られており、即時的なキャリア転換先として位置づけるよりも、システムプログラミングの理解を深めるための学習言語として活用する実践が多い。(出典:[Stack Overflow Developer Survey 2025](#))

3. データベース設計スキルの市場価値: PostgreSQLとRedisが示す潮流

バックエンドエンジニアの技術的差別化において、データベース設計の深度は最も重要な要素の一つである。データベースの選択と最適化は、サービスのスケーラビリティと可用性に直結するため、この領域での高い専門性は採用側の企業から強く評価される。

Stack Overflow 2025が示すデータベース採用トレンド

Stack Overflow Developer Survey 2025のデータベース部門によれば、PostgreSQLの利用率は55.6%に達し、前年の48.7%から6.9ポイント増加してデータベース部門の第1位を維持している。第2位はMySQL(40.5%)、第3位はMongoDB(30.5%)と続く。中国語メディアによる同調査の分析では、PostgreSQLがMicrosoft SQL ServerやOracleなどのレガシー商用データベースを着実に置き換えていることが確認されている。(出典:[Stack Overflow Developer Survey 2025 – Technology](#))

同調査で特筆すべきはRedisの急成長であり、利用率が前年比8ポイント増となった。Stack Overflowは公式コメントで「アプリケーションの複雑化が進むにつれ、高速なインメモリキャッシュとデータ構造を提供するRedisが現代的なスタックの必須コンポーネントとなっている」と記している。(出典:[Stack Overflow Developer Survey 2025 – Technology](#))

データベース利用率データ(Stack Overflow 2025)

- PostgreSQL: 55.6% (+6.9pp)、全データベース中第1位
- MySQL: 40.5%、第2位
- MongoDB: 30.5%、第3位
- Redis: 28% (+8pp)、急成長・高速インメモリ処理の需要増加が背景
- SQLite: 38.6%、MariaDB: 20%

バックエンドエンジニアに求められるデータ設計の深み

PostgreSQLの利用率拡大は、単なるシェア数値にとどまらず、採用市場の求人要件にも反映されている。求人票においてPostgreSQLの実務経験が必須またはあると望ましいとされる割合は増加傾向にある。特にGoまたはPythonを使用したバックエンド開発案件では、PostgreSQLとの組み合わせが事実上のデファクトスタック化しつつある。

Redisの急成長が意味することは、セッション管理・キャッシュ層・リアルタイムランキング・メッセージブローカーといった用途でインメモリデータストアの設計経験が求められる場面が増えていくことである。バックエンドエンジニアとして「リレーショナルデータベースとインメモリデータストアを組み合わせた設計ができる」ことは、アーキテクチャレベルの議論に参加できることを意味し、上位ポジションへの道を開く技術的資産となる。

QiitaによるStack Overflow 2025調査の日本語分析記事では、PostgreSQLのランキングスコアが6.6で全データベース中で高い注目度を示していることが確認されている。(出典:[Qiita - 2025年 総括・流行した開発ツール TOP50](#))

4. クラウド・インフラ知識の習得: バックエンドの上流領域へ

バックエンドエンジニアが「実装のみ担当する」ポジションから脱し、アーキテクチャや運用設計の議論に参加できるエンジニアへとスケールするための最も有効な手段の一つが、クラウドおよびコンテナ技術の習得である。

AWS/GCP/Azureスキルが年収に与える影響

国内求人情報をまとめた複数の市場調査(HirePlanner 2025年版)では、クラウドエンジニア(AWS/GCP/Azure)の年収幅として700万円~1,300万円が示されており、クラウド移行プロジェクトの急増がこの水準を後押ししていると記されている。(出典:[HirePlanner - 日本のIT業界で働くために知っておくべきポイント\(2025年最新版\)](#))

Findy Freelanceが2026年2月に公表した集計データでは、クラウドエンジニア案件の平均年収は951万円を記録している。このデータは、クラウドスキルを持つエンジニアがフリーランス市場において特に高い評価を受けていることを示している。(出典:[FNN - クラウドエンジニア案件2026年2月最新](#))

バックエンドエンジニアにとってのクラウドスキルは、アプリケーションの実装とデプロイメントの橋渡しとなる。具体的には、AWS LambdaやCloud Runを使ったサーバーレスアーキテクチャの設計、Amazon RDSやCloud SQLといったマネージドデータベースの選定と運用、IAMによるアクセス制御の設計などが、上位ポジションの求人で繰り返し登場する要件である。

DockerとKubernetesの必須化

Stack Overflow Developer Survey 2025は、Dockerについて次のように記述している。「Dockerはすでに人気ツールから、ほぼ普遍的なツールへと移行した。2024年から2025年にかけて調査対象全技術で最大の単年増加幅となる17ポイントの利用率上昇を記録し、71.1%に達した」。こ

の数値は49,000人超・177カ国の回答者を対象とした調査に基づいている。(出典:[Stack Overflow Developer Survey 2025 – Technology](#))

71.1%

Docker

開発者利用率

(Stack Overflow 2025)

+17pt

Docker

単年利用率増加幅

(全技術中最大)

951万円

クラウドエンジニア

フリーランス平均年収

(Findy 2026年2月)

出典: Stack Overflow Developer Survey 2025、FNN / Findy Freelance (2026年2月時点)

バックエンドエンジニアにとってDockerの習得は、ローカル開発環境の再現性確保・CI/CDパイプラインへの統合・マイクロサービス間の依存関係管理という三つの実務的な場面で即時に活用できる投資となる。Kubernetesは複数コンテナの本番環境での管理・オートスケーリング・デプロイ自動化に関わり、これを扱えるエンジニアはSREや上位アーキテクトのポジションに近づく。フリーランスエンジニアを対象とした調査では「Docker/Kubernetesといったコンテナ技術とCI/CD

環境の知識をセットで提供できるかどうかを最高単価を更新する分かれ目」との分析も示されている。(出典:[フリーランスStart – 2026年最新版フリーランスエンジニアの職種別平均単価統計](#))

5. SREへのキャリアシフト: バックエンドから信頼性エンジニアリングへ

Site Reliability Engineering (SRE) は、バックエンドエンジニアにとって最も自然なキャリア発展先の一つとして、市場データが一貫して示している。バックエンド開発で培ったAPI設計・データベース最適化・アーキテクチャ理解は、SREが求める「コードを書いて信頼性問題を解決する」能力に直結するためである。

SREの市場価値と年収データ

Findyが2024年初頭に公表した「エンジニア転職市場・キャリア動向レポート」では、職種別平均年収においてSREが787.9万円でトップとなった。この数値は同レポート内の全職種中で最高であり、バックエンドエンジニア・フロントエンドエンジニア・インフラエンジニアを上回っている。(出典:[Findy – 最新のエンジニア転職市場・キャリア動向\(2024年3月\)](#))

LAPRASの2025年分析でも同様の傾向が見られる。SREの希望年収は全職種中で最も高水準に分布しており、800万円～899万円をピーク(約23%)として800万円～1,100万円の範囲に全体の半数以上が集中する。さらに1,500万円以上を希望するSREエンジニアの比率(6%超)は全職種で最高であり、高い専門性を持つSREへの市場からの評価が数値として明確に示されている。(出典:[LAPRAS HR TECH LAB – ITエンジニアの職種別年収トレンド\(2025年\)](#))

バックエンドエンジニアがSREに転向するための実践的ステップ

SREへのキャリアシフトには、バックエンド開発の経験を土台としながら、いくつかの追加スキルの習得が必要となる。SREの実務で中心的に活用される概念として、SLI(サービスレベル指標)・SLO(サービスレベル目標)・SLA(サービスレベル合意)の三つがあり、これらを定義・計測・管理する経験がSRE職の採用要件として頻出する。

具体的な技術スキルとしては、PrometheusやGrafanaを用いたメトリクス収集と可視化、Kubernetes上でのサービスデプロイと障害対応、Infrastructure as Code(Terraform/Ansible)による構成管理が求められる。これらはバックエンドエンジニアが日常業務でDockerやクラウドに触れる中で自然に積み上げられる経験と連続性を持つ。

Findy Freelanceが2025年11～12月に実施した「インフラ・SREエンジニアの動向」調査では、SREへのキャリアパスを持つ回答者の過半数がバックエンド・フロントエンド・フルスタックといった開発系職種を経由していることが確認されている。(出典:[Findy – インフラ・SREエンジニアの動向 調査レポート\(2025年12月\)](#))

6. AIを活用したバックエンド開発: 生産性と市場価値の変化

生成AIの実用化は、バックエンドエンジニアの日常業務の内容と、採用市場における評価軸の両方に変化をもたらしている。AIツールを活用できるエンジニアとそうでないエンジニアの間で生産性に差が生じているという認識は、複数の独立した調査で確認できる。

開発者のAI活用実態データ

Stack Overflow Developer Survey 2025では、大規模言語モデル(LLM)の開発業務への活用に関し、OpenAIのGPTモデルが開発用途で82%の回答者に使用されており、AnthropicのClaude Sonnetはプロフェッショナル開発者の45%が活用していることが示されている。また同調査のブログ記事によれば、開発者の69%が過去1年間に新しいコーディング技術または新しいプログラミング言語を学習しており、そのうち44%はAIの助けを借りて学習したと回答している。(出典:[Stack Overflow Blog – Developers remain willing but reluctant to use AI\(2025年\)](#))

WEFが2026年1月に公開したレポート「Software developers are the vanguard of how AI is redefining work」によれば、2025年時点で開発者の4割がAIによってキャリアの機会が拡大したと回答しており、7割近くが今後自分の役割が大きく変化すると見ている。(出典:[WEF – Software developers are the vanguard of how AI is redefining work\(2026年1月\)](#))

AIが変えるバックエンドエンジニアの役割

McKinseyが2025年に発表した「Unlocking the value of AI in software development」では、AIが採用されている先進的なソフトウェア組織において、エンジニアの役割が「コードを書く」から「アーキテクチャを設計し、AIが生成したコードを検証・統合する」方向にシフトしていることが記されている。（出典：[McKinsey – Unlocking the value of AI in software development\(2025年\)](#)）

バックエンドエンジニアにとってこの変化が意味することは具体的である。APIのボイラープレートコード生成・単体テストの自動生成・既知のアルゴリズム実装といった定型作業においてAIツールの活用が進む一方で、システム全体のアーキテクチャ設計・データモデリング・セキュリティ設計・パフォーマンスチューニングといった領域は、文脈を理解したうえでの判断が必要なためAIの自律的な処理が難しく、引き続き高い専門性を持つエンジニアの担当領域として価値を持つ。

LAPRASが2025年に発表したレポートでは、AIが「コードを書く」役割を担い始めたことで、エンジニアには課題解決能力・技術応用力・マネジメント能力が一層求められるようになっており、これは「技術×事業貢献」の軸でキャリアを設計することへの示唆である。（出典：[LAPRAS – AI時代に求められるエンジニアのスキル\(2025年\)](#)）

キャリア戦略の統合：スケールを実現する三つのアプローチ

本稿で示した五つの技術軸（言語・データベース・クラウド・SRE・AI）をキャリア設計に組み込む際には、現在の経験年数とポジションに応じて優先順位が異なる。以下に三つのアプローチを市場データに基づいて整理する。

経験フェーズ	優先習得領域	市場的根拠
～3年 （基礎構築）	Go/Python習得・PostgreSQL設計力・Docker基礎	paiza 2025: Go年収1位（723万円）、PostgreSQL利用率55.6%（SO 2025）

3～7年 (差別 化)	クラウド設計 (AWS/GCP)・Redis・ Kubernetes基礎・AIツール活用	クラウドエンジニア平均951万円 (Findy 2026年2月)、Docker +17pp (SO 2025)
-------------------	---	---

7年超 (スケール)	SRE・アーキテクチャ設計・組織横 断的な技術貢献	SRE希望年収ピーク800-899万円・ 1,500万円超6% (LAPRAS 2025)
---------------	------------------------------	--

各段階の根拠データはすべて本稿内で出典を示した一次調査に基づく。

第一のアプローチは「言語と設計の深化」であり、GoまたはPythonを主力言語として精通するとともに、PostgreSQL・Redisを組み合わせたデータ設計の経験を積むことで、バックエンドエンジニアとしての市場価値を基礎から底上げする。

第二のアプローチは「上流への拡張」であり、Dockerを起点にKubernetesおよびクラウドプラットフォームへとスキルを広げることで、インフラ・SREポジションへの移行を可能にする。LAPRAS (2025年)のデータが示すように、この移行によって希望年収のボリュームゾーンは一段高い水準にシフトする。

第三のアプローチは「組織・事業への貢献拡大」であり、技術的専門性をベースとしながら事業課題への解決提案・チームの技術的意思決定への参加・AIツール活用による生産性最大化を組み合わせることで、マネジメントトラックやエンジニアリングマネージャーとしてのキャリアパスを開く。WEFの2025年報告が示すように、AIと人間の協働が進む時代において「技術的判断力と事業貢献を兼備するエンジニア」の希少性は増し続ける。(出典:[WEF – Software developers are the vanguard of how AI is redefining work \(2026年1月\)](#))

おわりに: データが示すキャリアのスケールポイント

本稿で示したエビデンスを総括する。バックエンドエンジニアの平均年収は862万円 (Findy Freelance 2025)と複数職種の中で上位に位置し、LAPRASのデータでは求人年収上限の平均が1,059万円に達している。言語別ではGoが3年連続でpaiza調査の年収1位 (723万円)を獲得

しており、フリーランス市場での年収は969万円 (Findy 2025年10月) にのぼる。データベースではPostgreSQLが55.6%の利用率 (Stack Overflow 2025) でトップを維持し、RedisはStack Overflow史上有数の伸び率 (+8pp) を記録した。コンテナ技術Dockerの開発者利用率は71.1% (+17pp) と急拡大し、クラウドエンジニアのフリーランス平均年収は951万円 (Findy 2026年2月) を示している。SREは全職種中で最も希望年収が高水準に分布し (LAPRAS 2025)、1,500万円超を希望する割合も最高である。

これらのデータが示す共通の構造は、「バックエンドの実装力を土台として、クラウド・インフラ・信頼性エンジニアリングへとスキルの射程を広げるエンジニアほど、市場価値が高い水準で維持・向上しやすい」という点である。この構造を理解したうえでの意図的なキャリア設計こそが、「スケールするキャリア」の核心である。

Librus株式会社は、サイバーセキュリティおよび経営コンサルティングサービスを提供する立場から、エンジニアと組織の双方が技術的变化に適応するための支援を行っている。キャリア設計・採用戦略・組織のデジタル対応力強化に関するご相談は、本稿末尾のお問い合わせ先からお気軽にご連絡いただきたい。

参考文献・出典一覧

1. World Economic Forum, "Future of Jobs Report 2025", 2025年1月.
<https://www.weforum.org/publications/the-future-of-jobs-report-2025/>
2. WEF, "Software developers are the vanguard of how AI is redefining work", 2026年1月.
<https://www.weforum.org/stories/2026/01/software-developers-ai-work/>
3. Stack Overflow, "2025 Developer Survey – Technology", 2025年.
<https://survey.stackoverflow.co/2025/technology>
4. Stack Overflow Blog, "Developers remain willing but reluctant to use AI – 2025 Developer Survey Results", 2025年12月. <https://stackoverflow.blog/2025/12/29/...>
5. CodeZine, "2025年版バックエンドエンジニア案件の調査結果、平均年収は862万円", 2025年.
<https://codezine.jp/news/detail/22244>
6. PR Times / Findy Freelance, "バックエンドエンジニア案件2025年11月最新", 2025年.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000077.000116595.html>

7. LAPRAS HR TECH LAB, "ITエンジニアの職種別年収トレンド(2025年)", 2025年.
<https://hr-tech-lab.lapras.com/knowledge/research-report/revenue-trends-2025/>
8. LAPRAS HR TECH LAB, "プログラミング言語・フレームワーク別求人数の推移(2025年)", 2025年.
<https://hr-tech-lab.lapras.com/knowledge/research-report/programming-languages-frameworks2025/>
9. paiza株式会社, "プログラミング言語に関する調査(2025年版)", 2025年12月.
https://www.paiza.co.jp/news/20251222/251222_survey_programming_2025/
10. Findy, "IT/Webエンジニアの平均年収調査・言語別データ(2024年版)", 2024年.
https://findy-code.io/blog/engineer-career_annual-income_01/
11. PR Times / Findy Freelance, "Go言語エンジニア案件2025年10月最新", 2025年.
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000069.000116595.html>
12. Findy, "エンジニア調査レポート2025年12月版", 2025年.
https://findy-code.io/job-market-trends/202512_engineer_report
13. Findy, "最新のエンジニア転職市場・キャリア動向レポート(2024年3月)", 2024年.
https://findy-code.io/pdf/job_market_trends202403.pdf
14. Findy / FNN, "クラウドエンジニア案件2026年2月最新", 2026年.
<https://www.fnn.jp/articles/-/996630>
15. Findy, "インフラ・SREエンジニアの動向 調査レポート(2025年12月)", 2025年. [Findy Freelance PDF\(2025年12月\)](#)
16. HirePlanner, "日本のIT業界で働くために知っておくべきポイント(2025年最新版)", 2025年.
<https://www.hireplanner.com/blog/top-it-jobs-in-japan-your-guide-to-landing-tech-jobs-in-2025>
17. フリーランスStart, "2026年最新版フリーランスエンジニアの職種別平均単価統計", 2026年.
<https://freelance-start.com/articles/1388>
18. Qiita, "2025年総括 – 流行した開発ツール TOP50【Stack Overflow 5万人調査】", 2025年.
<https://qiita.com/dave-kiara-inc/items/1656bdf4819bae27434e>
19. McKinsey, "Unlocking the value of AI in software development", 2025年.
<https://www.mckinsey.com/industries/technology-media-and-telecommunications/...>

監修者情報

鎌田 光一郎(かまた こういちろう)

青山学院大学法学部卒業。SMBC日興証券株式会社にて証券営業、経営管理業務に従事したのちPwCコンサルティング合同会社に転籍。金融機関に対するコンサルティング業務に従事。その後、Librus株式会社を設立、代表取締役役に就任。

お問い合わせ先

Librus株式会社(代表取締役 鎌田光一郎)

〒105-0004 東京都港区新橋6丁目13-12 VORT新橋Ⅱ 4F

TEL: **03-6772-8015**

お問い合わせフォーム: <https://librus.co.jp/contact>